

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバの出現と付着状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

### (1) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません(図2)。

### (2) オベリア類(通称:クサ)

クラゲは見られていません。

### (3) キヌマトイガイ

ラーバは見られていません。

### (4) アミクサ(通称:クサ)

小枝は見られていませんが、平成29年10月3日～11月7日に久栗坂沖、川内沖で実施した付着基質調査では見られました。

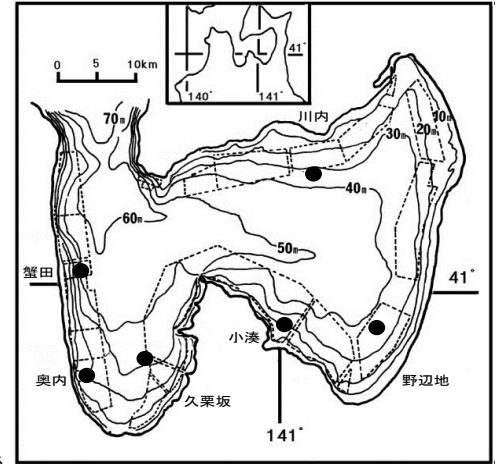


図1 ラーバ調査地点

## 2 今後の見込み

**ユウレイボヤ**は水温が20℃以下に低下すると産卵しますが、現在、陸奥湾内の中層水温が15～16℃台まで低下したにもかかわらず、依然としてラーバが見られないことから、**分散済みの籠への今秋における付着は少ない可能性**があります。

**アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明け**になるものと思われま

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	オベリア類	アミクサ小枝
久栗坂沖	H29.11.7	0.0	1.6	0.0	0.0
野辺地沖	H29.11.6	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H29.11.7	0.0	0.0	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

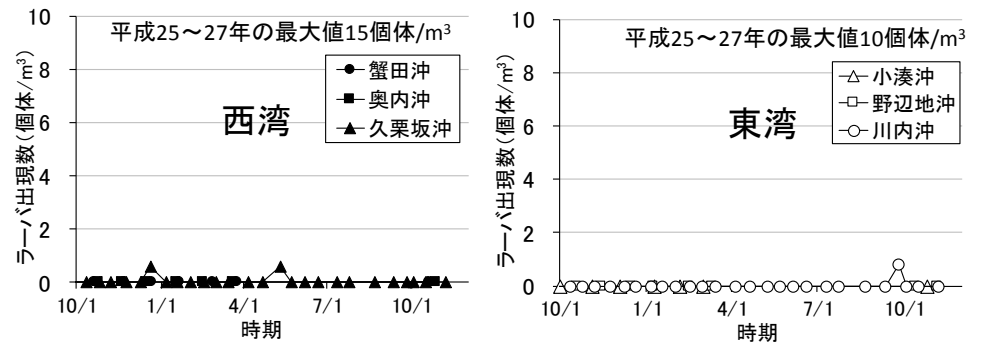


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(平成28年10月～平成29年11月)

## 3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月～翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月～翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ない**ことが分かりました(図3)。

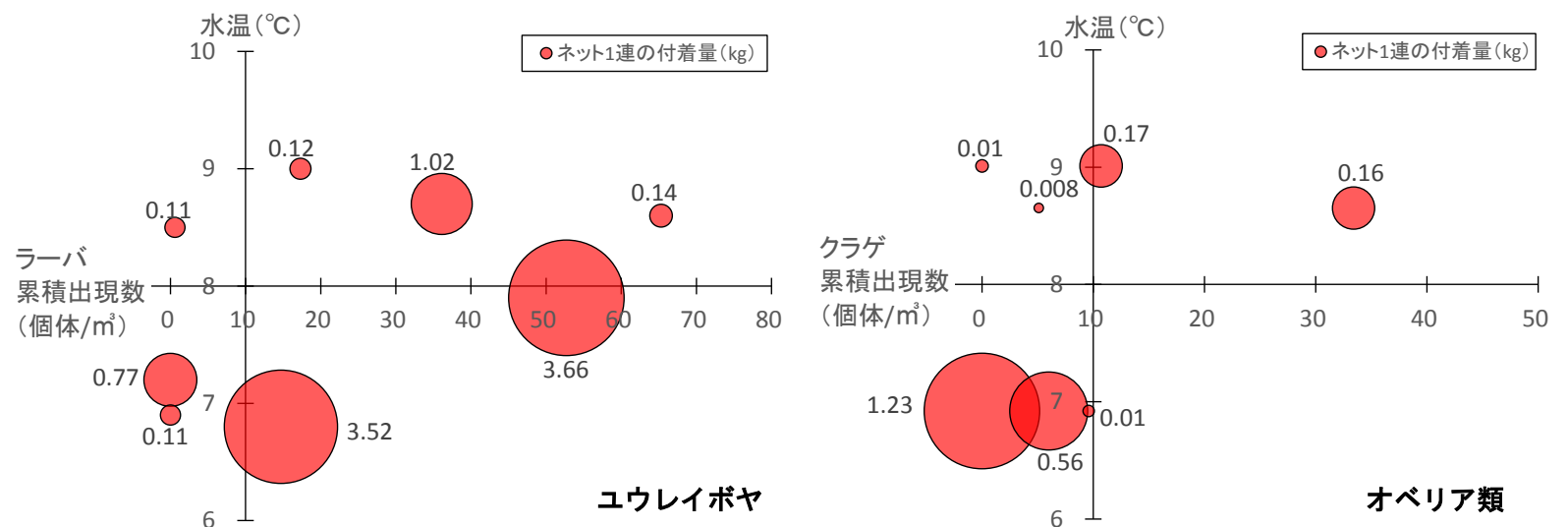


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量)

